

## 2019年7月23～24日、有鹿小・東柏小「えびなっ子スクール」報告

シェイクアウト訓練（応用編）

作成：福田博

### （１）「えびなっ子スクール」で、シェイクアウト訓練（応用編）を実施

海老名災ボラは、2019年度「えびなっ子スクール」で、シェイクアウト訓練（応用編）を7月23日（火）に有鹿小学校で、7月24日（水）に東柏ケ谷小学校で、会場は、いずれも教室で実施しました。海老名災ボラの講師は、福田博、水本晶子、吉野達志でした。

表1 シェイクアウト訓練（応用編）の実施

学校名	期日	体験活動時間帯	対象学年・児童	講師
有鹿小学校	7/23	1時限目 9:15～10:00	3年、20名	福田、水本
		2時限目 10:15～11:00	4年、20名	福田、水本
東柏ケ谷小学校	7/24	2時限目 10:15～11:00	1～3年、36名	福田、吉野

### （２）「質問」（地震発生時の動き方）と子どもたちの「答え」をまとめる

講師が「地震発生時の動き方」について質問し、児童が「それに答える」（対話形式）で進めた。参加した児童が、1年生～4年生とかなり幅があり、また、同じ教室に参加人数も20人～36人とかなり幅があった。

質問に対して、どれかの選択肢に手を挙げることができた児童、どれにも手を挙げられなかった児童、ぼんやりとしている児童と様々であった。自分がその選択肢を選んだ理由を説明しようと積極的に手を挙げる子がかなりいた。残念ながら、時間の関係で一人ひとりの意見を丁寧に聴くことはできなかった。

次に、質問に対する児童の回答の傾向をおおざっぱにまとめてみる。

#### 1) シェイクアウト訓練の基本動作（1-2-3）について

①講師：「姿勢を低くする」理由は？

児童：「立ってられないから」、「身体が飛ばされないように」と答えた児童は少なかった。

②講師：「頭を守る」理由は？

児童：「頭をケガすると大変だから」との答えが多かった。

③講師：「揺れがおさまるまで、じっとしている」理由は？

児童：「揺れが続いている間は、物が倒れたり、落ちてきたりするから」との答えがあった。

#### 2) 質問1：教室にいたとき（先生はいない）、大きな揺れを感じた。どうしますか？

講師が「地震だ」と叫ぶと、大部分の児童は、「すぐに机の下に頭を入れて、机をつかんで頭をまもる」動きをとった。シェイクアウト訓練の基本動作は多くの児童が知っている。

#### 3) 質問2：「揺れがおさまった後、どうしますか？」

児童：「すぐ教室の外に出る」と答えた児童が少数だが、あった。「自分のまわり（ケガ、危険な場所など）をよく見てから動く」が多かった。理由を聴くと、教室内の危険な場所（窓ガラス付近、テレビのある場所付近、ドア付近など）があるという意見を述べた児童があった。

4) 質問3:「道路(通学路上)を歩いているとき、大きな揺れを感じた。どうしますか?」

児童: 1「すぐに、その場所で、低い姿勢で頭を守る」という意見よりも、2「まわりに危険な物(ブロック塀、看板、自動車)がないかを見てから、危険があれば、そこから少しでも離れて、低い姿勢で頭を守る」という意見が多かった。

講師は、ふだんから、通学路上の「どこにどんな危険があるか」を見て、歩いて欲しいということ強く要望した。

③ 質問4:「家にいるとき、大きな揺れを感じたらどうしますか?」

児童: 2「すぐに丈夫なテーブルの下などにもぐり、低い姿勢で頭を守る」と3「家の中で少しでも安全なところ(トイレ、玄関など)に向かって動く」が多かった。

講師は、家の耐震性(木造建築、鉄筋コンクリート製など)によっても、家具の固定や落下防止などの対策を行っているか、高層建築物の高層階かなど、住んでいるところの諸条件によって、身の安全を守る動き方は違って来る。そのため、自分の家の中では、どこにどんな危険があるかを話しあってほしいと強調した。

④ 質問5:「家にいるとき、大きな揺れがあったが、しばらくしたら、おさまった。そのあと、どうしますか?」(子供だけで家に居るときを想定した)

児童: 3「ケガをした、倒れた家具の下になった、家の外に出られなくなった、などの被害が出たら、大きな声で助けを求める」が最も多く、次いで2「まわりをよくみて、ケガ・家具の転倒などの被害や、無事などを、家族や近所の人に知らせる」が多かった。

ある児童は、「何もしなくても消防や警察が助けに来てくれる」という意見を述べた。この意見に対して、その教室にいた学校応援団の人(消防署職員)が大きな災害が起こった時には、消防署はそれぞれの被害者の救援に行けないだろうと述べた。

講師は、1995年の阪神淡路大震災の時に、倒壊した家の下敷きになった人を助け出したのは近所の人たちであった事例を説明し、大きな被害があった時こそ、近所の人に助けを求める重要性を強くアピールした。

(3) 残された課題は何か?

① 「自分の身を守る動き方」を地震が起こった時に実践できるかどうか。

今回は大きな地震が起こる前に、「大きな揺れを感じたとき」に、どのように行動することが「自分の身の安全を守ることにつながるか」を児童自身に考えてもらった。実際に、大きな地震が起きたときには、気が動転してしまい、落ち着いて行動することができないかもしれない。

実際に大きな地震に遭遇した時に、自分が考えていた動き方がとれるかどうか、実際に自分がいる場所の条件に応じて、「臨機応変の動き方」がとれるかどうか訓練の課題である。こうしたイメージトレーニングを積み重ねて、さらに工夫・改善していくことが必要であろう。

② 児童との対話を楯子に、家族で地震に対する関心が高まり、地震への備えを実践するか

今回は、小学校の児童を対象にしたイメージトレーニングであった。この児童との対話を楯子に、家族で「地震に対する話し合い」を行い、「自分の家の危険性」を知り、その危険性を低下させる活動(事前の備えなど)を「家族ぐるみ」で開始するかどうか課題である。

③ 45分という短い時間帯での活動のため、子どもの意見をじっくり出させる時間がなかった  
短い時間帯での訓練では、質問数を減らすか・説明を簡単にするか、あるいは、少人数のグループ編成にして、児童の意見を十分に聴く時間を持つことが考えられる。少人数編成の場合、それぞれのグループをリードする講師が必要になる。今回は最初の試みでもあり、平日の午前中に、各小学校に2名の講師を派遣することが、ようやく可能となった。

④ 講師の話し方の工夫・上達も必要である

今回、小学校の低学年・中学年（1～4年生）を対象にした。漢字に「ふりがな」をつけるとか、専門用語はできるだけ使わずに、分かりやすい言葉遣いになるように努力した。しかし、ぼおーとしていた子どももいた。子どもの関心を引き付けるためには、講師の話し方の工夫・上達も必要だと思う。（今回はNHKのテレビで流行っている「チコちゃん」の「ぼおーとしているんじゃねーよ」をギャグとして使った。4年生や付き添いの実行委員（大人）には受けたらしい。）

【写真】小学校での写真撮影は、プライバシーの保護の観点から、厳しく制限されている。特に、子どもの顔が映り、誰かがわかる写真を撮ることはできない。それで、あまり面白くない写真となった。参考のために、ここに掲載する。SNSなどで不特定多数に公開するには、教育委員会の許可があることも知っておいて欲しい。



【参考1】「えびなっ子スクール」とは何か？

① 以前は「サマースクール」という名称で実施されてきた

海老名市立小学校では、夏休みの「居場所づくり」として「サマースクール」が学校関係者及び地元住民の参加協力で小学校ごとに実施されていた。そこでは、ふだんの授業ではなかなか経験できないような講習（体験型活動など）が、様々な団体の協力により、行われてきた。

② 現在は「えびなっ子スクール」という名称で実施されている

2011年以降、海老名市教育委員会の方針により、各小学校に「学校応援団」が作られた。学校応援団は、元教職員、元PTA関係者、地元住民などによって小学校ごとに設置され、学校応援団の事業の一環として、「サマースクール」は「えびなっ子スクール」という名称で、実施されてきた。

③ 海老名災ボラは「サマースクール」の頃から講師を派遣し協力してきた

海老名災ボラは、サマースクールの頃から現在のえびなっ子スクールまで、講師を派遣して、体験型活動の実施に協力してきた。体験型活動としては、「ブルーシートを活用した三角テントづくりとロープワーク」などがあり、毎年1～2の小学校で、実施してきました。2018年度では、有鹿小学校で「シェイクアウト訓練」（基本動作だけ）、「ブルーシートを利用した三角テントと必要なロープワーク」を実施した。

## 【参考2】海老名災ボラの提案事業が「海老名っ子スクール」で実施されるまで

2019年度の「海老名っ子スクール」で、海老名災ボラの提案事業が、有鹿小学校及び東柏ヶ谷小学校で、実施することができるようになった「経過」を述べる。(毎年、同様に実施される)。

### ① 海老名市教育委員会のアンケート調査票が、これまでの協力団体に送られる

海老名市教育委員会「学び支援課」から、海老名っ子スクールに協力してきた団体に、次年度の「えびなっ子スクール」に関するアンケート調査票（A41枚）が送られてくる（2018年は11月頃）。このアンケート調査に「日程の調整ができれば協力したい」と回答すると、教育委員会の「協力者名簿」に記載される。

### ② 教育委員会のアンケート調査に回答⇒学校応援団に情報が提供される

このアンケート調査票に、災ボラが実施しようとする事業の内容を記載して、教育委員会学び支援課に送る（郵送締め切りは2019年1月11日）。海老名災ボラは、「シェイクアウト訓練応用編」（小学校1～4年生向け、50分）と、「防災マップづくり」（小学校5～6年向け、100分）を提案しました。協力団体からの事業内容の情報が各小学校の学校応援団に送られ、有鹿小学校と東柏ヶ谷小学校「えびなっ子スクール」が海老名災ボラの提案事業（「シェイクアウト訓練・応用編」）を採択した。日程が重複しないように教育委員会で調整してくれた。

### ③ 有鹿小学校、東柏ヶ谷小学校の学校応援団から、連絡（依頼の内示）がある

有鹿小学校、東柏ヶ谷小学校の「えびなっ子スクール」の担当者から、具体的な内容が海老名災ボラの代表者（福田）に連絡（書面または電話）が入った。

### ④ 有鹿小学校、東柏ヶ谷小学校から体験活動の「講師派遣依頼書」が届く

有鹿小学校、東柏ヶ谷小学校の学校応援団から正式の依頼書が災ボラ代表（福田）に郵送されてくる。その依頼書の中には、必要経費（資料代、交通費など）について一定の金額を学校応援団に請求することができるが、海老名災ボラは、サマースクールの頃から、経費の請求をしていないので、今回も請求していない（無料で実施）。

### ⑤ 両校の学校応援団の担当者と電話で連絡して、具体的な実施方法を打ち合わせる

その後、実施予定日までに、有鹿小学校、東柏ヶ谷小学校の学校応援団の担当者と電話で、事業の詳細について、打ち合わせた。

こうした手順を踏んで、海老名っ子スクールへの参加・協力が実現した。そのためには、約10か月前からの取り組み準備が必要になる。同時に、小学校の学校応援団に、災ボラ提案が採択されるような提案（時間帯と実施内容を含む）にする必要がある。（これとは別件ではあるが、海老名市社協が小学校に提案する「福祉教室」も同様な手続きを経て実施される。）

今後、海老名災ボラの役員になる方は、次年度の事業計画を描いておく必要があることを留意してほしい。